

(記入例)
特 定 施 設 設 置 届 出 書

令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

(宛先)長野市上下水道事業管理者

申請者	住 所	東京都〇〇区〇〇1丁目23番地
	電 話 番 号	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	氏名又は名称 及び法人に あつてはその 代表者の氏名	株式会社 〇〇〇〇 代表取締役 〇〇 一郎

下水道法第12条の3第1項(下水道法第25条の10において準用する同法第12条の3第1項)の規定により、特定施設の設置について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	レストラン〇〇〇 長野店	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	長野市〇〇2丁目3番地	※受理年月日	
特定施設の種類	66の6 飲食店に設置される ちゅう房施設	※施設番号	
△特定施設の構造	別紙のとおり。	※審査結果	
△特定施設の使用の方法	別紙のとおり。		
△汚水の処理の方法	別紙のとおり。	※備 考	
△下水の量及び水質	別紙のとおり。		
△用水及び排水の系統	別紙のとおり。		

- 備考
- △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - ※印の欄には、記載しないこと。
 - 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙 1

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	①	
特定施設番号及び名称	66の6 ちゅう房施設	
型 式	—	
構 造	別図(3)のとおり	
主 要 寸 法	別図(3)のとおり	
能 力	—	
配 置	別図(2)のとおり	
設 置 年 月 日	〇〇年 〇〇月 〇〇日	年 月 日
工事着手予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日	年 月 日
工事完成予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日	年 月 日
使用開始予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日	年 月 日
その他参考となるべき事項	※店舗床面積 〇〇〇m ² (図-3のとおり)	

備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。

2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

※店舗床面積、業務の用に供する部分のすべてを含みます。(ちゅう房・客席・倉庫・トイレ・更衣室等
ただし、風除室・屋内駐車場等、飲食物を提供しない部分・含みません。

別紙１の２

特定施設の設備

工場又は事業場における施設番号		
特定施設番号及び名称		
設 備		
構 造		
主 要 寸 法		
配 置		
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	年 月 日	年 月 日
工事完成予定年月日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日	年 月 日	年 月 日
その他参考となるべき事項		

- 備考 １ 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。
- ２ 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

別紙2

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		①			
特定施設号番号及び名称		66の6 ちゅう房施設			
設置場所		別図(2)のとおり			
操業の系統		別図(6)のとおり			
使用時間間隔		10時から 22時まで 連続			
1日当たりの使用時間		12 時間/日			
使用の季節的変動		なし			
原材料(消耗資材を含む。)の種類、使用方法及び1日当たりの使用量		野菜 10kg 魚 5kg 肉 3kg			
汚水等の汚染状態	種類・項目	通 常	最 大	通 常	最 大
	pH	7.2	7.4		
	BOD [mg/L]	750	890		
	SS [mg/L]	520	630		
	n-ヘキサン抽出物質 (動植物油脂類) [mg/L]	240	310		
汚水等の量 (m ³ /日)		通 常	最 大	通 常	最 大
		7.0	8.5		
その他参考となるべき事項					

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号	油水分離槽 1								
処理施設の設置場所	別図(5)のとおり								
設 置 年 月 日	〇〇年 〇〇月 〇〇日								
工事着手予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日								
工事完成予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日								
使用開始予定年月日	〇〇年 〇〇月 〇〇日								
種 類 及 び 型 式	□□社製 3槽式 G-400型								
構 造	別図(8)のとおり								
主 要 寸 法	別図(8)のとおり								
能 力	容量 400L (実容量 398L)								
処 理 の 方 法	自然沈殿分離式								
処 理 の 系 統	別図(7)のとおり								
集水及び導水の方法	溝および集水管								
使 用 時 間 間 隔	10時から15時まで 連続								
1日当たりの使用時間	12 時間/日								
使用の季節変動	なし								
消耗資材の 1日当たりの 用途別使用量	なし								
汚 水 等 の 汚 染 状 態 及 び 量	種 類 ・ 項 目	通 常		最 大		通 常		最 大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	pH	7.2	7.2	7.4	7.4				
	BOD [mg/L]	750	120	890	150				
	SS [mg/L]	520	30	630	50				
	n-ヘキサン抽出物質 (動植物油脂類) [mg/L]	240	15	310	20				
	量 (m ³ /日)	7.0		8.5					
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法		汚泥〇〇kg/月 産業廃棄物処理委託							
排出水の排出方法		下水道 No.1							
そ の 他 参 考 と な る べ き 事 項		残渣の回収業者「㈱□□□サービス」 026-〇〇〇-〇〇〇〇							

備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

2 排出水の排出方法の欄には、排出口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

別紙 4

排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		下水道No.1			
排水水の汚染状態	種類・項目	通 常	最 大	通 常	最 大
	pH	7.2	7.4		
	BOD [mg/L]	120	150		
	SS[mg/L]	30	50		
	n-ヘキサン抽出物質(動植物油脂類) [mg/L]	15	20		
排水水の量 (m ³ /日)		通 常	最 大	通 常	最 大
		8.3	10.7		
その他参考となるべき事項					

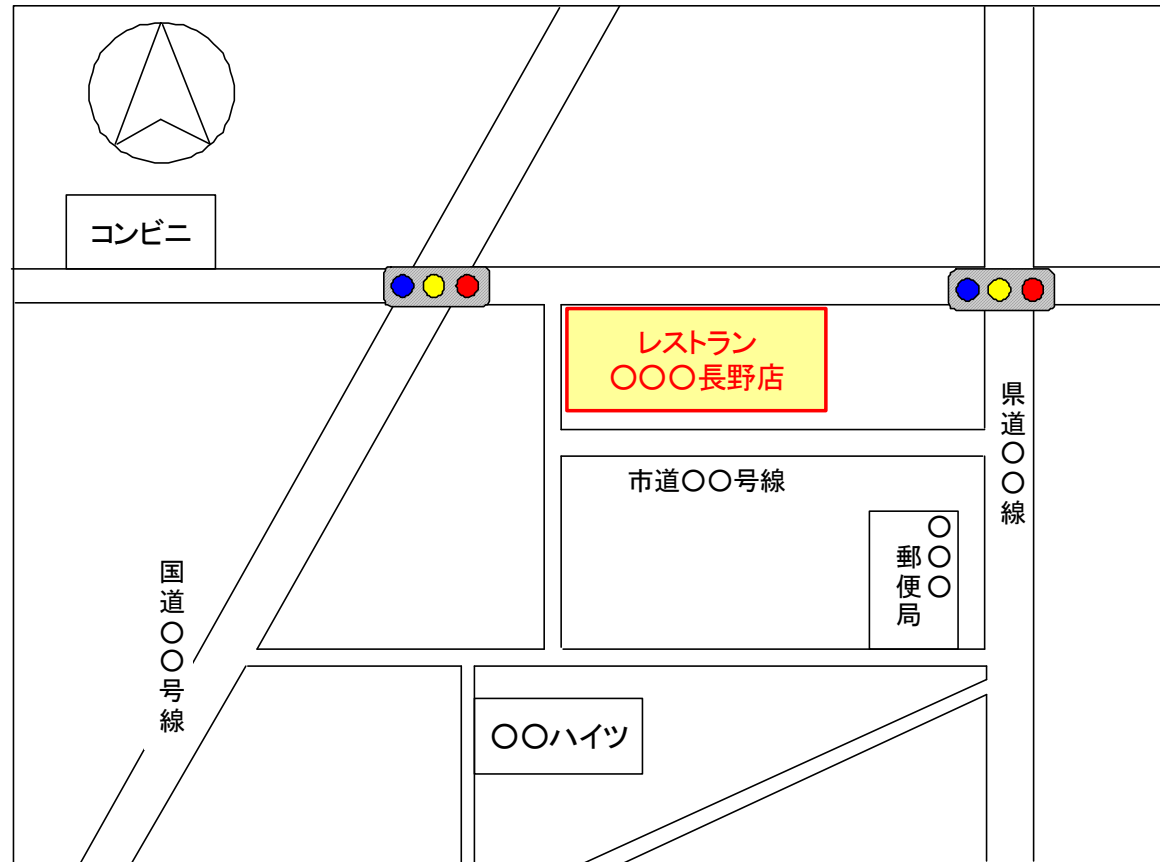
備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

用水及び排水の系統

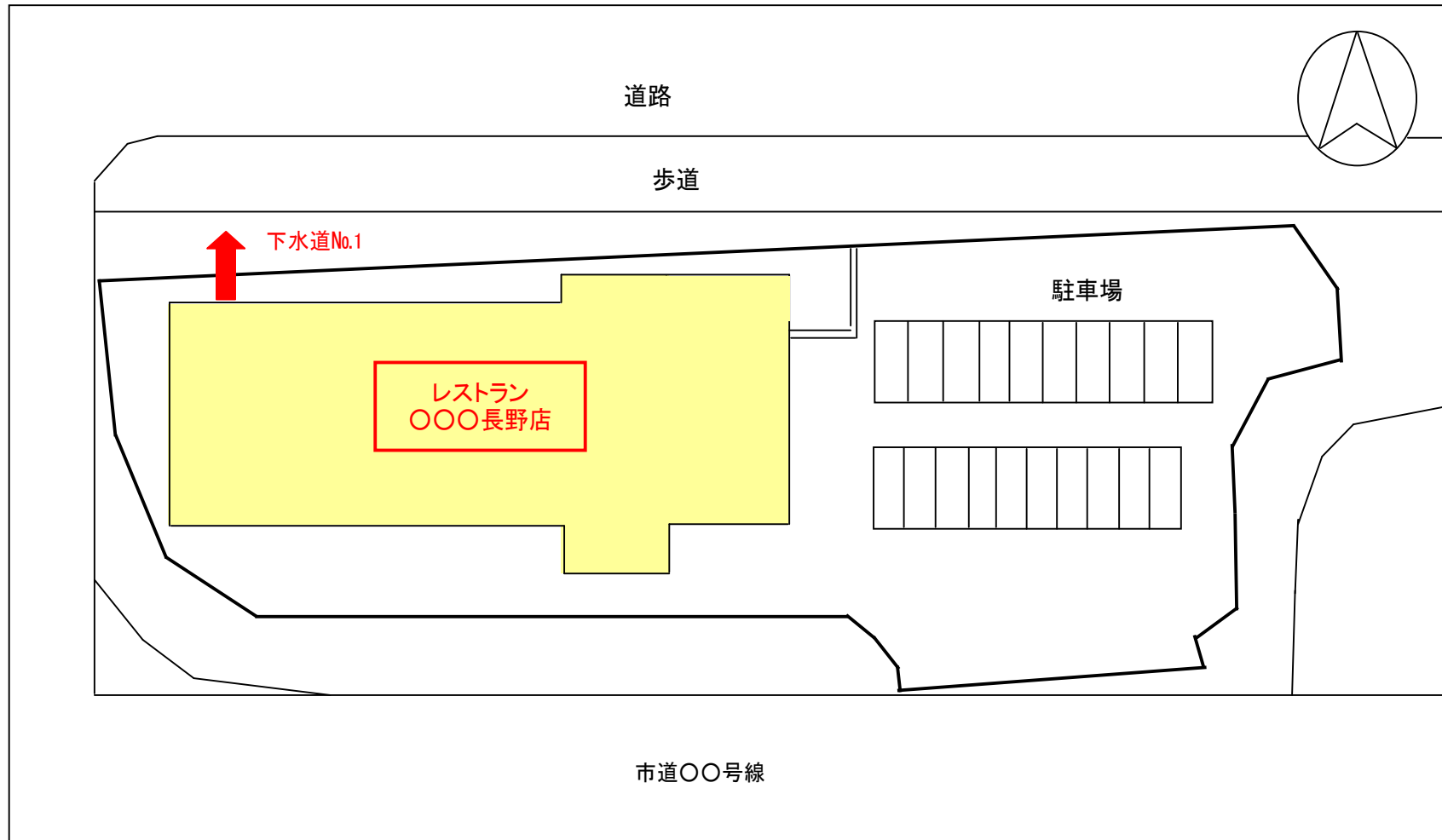
用水及び排水の系統	ア 事業場全体の配置 イ 給水系路 ウ 排出水の排出経路 (特定排水、間接冷却水を色分してください。) エ 雨水専用排水路 オ 処理施設の設置場所 カ 特定施設の設置場所 ア〜カまでを記した図面を添付してください。		
用 途 別 用水使用量	用 途	使 用 水	用水使用量 (m ³ /日)
	ちゅう房	上水道	7.0
	トイレ、手洗い	上水道	1.0
	その他	上水道	0.3

記入例

図ー1 付近の見取り図（記入例）



図ー2 建物の配置図（記入例）



図一3 面積表（記入例）

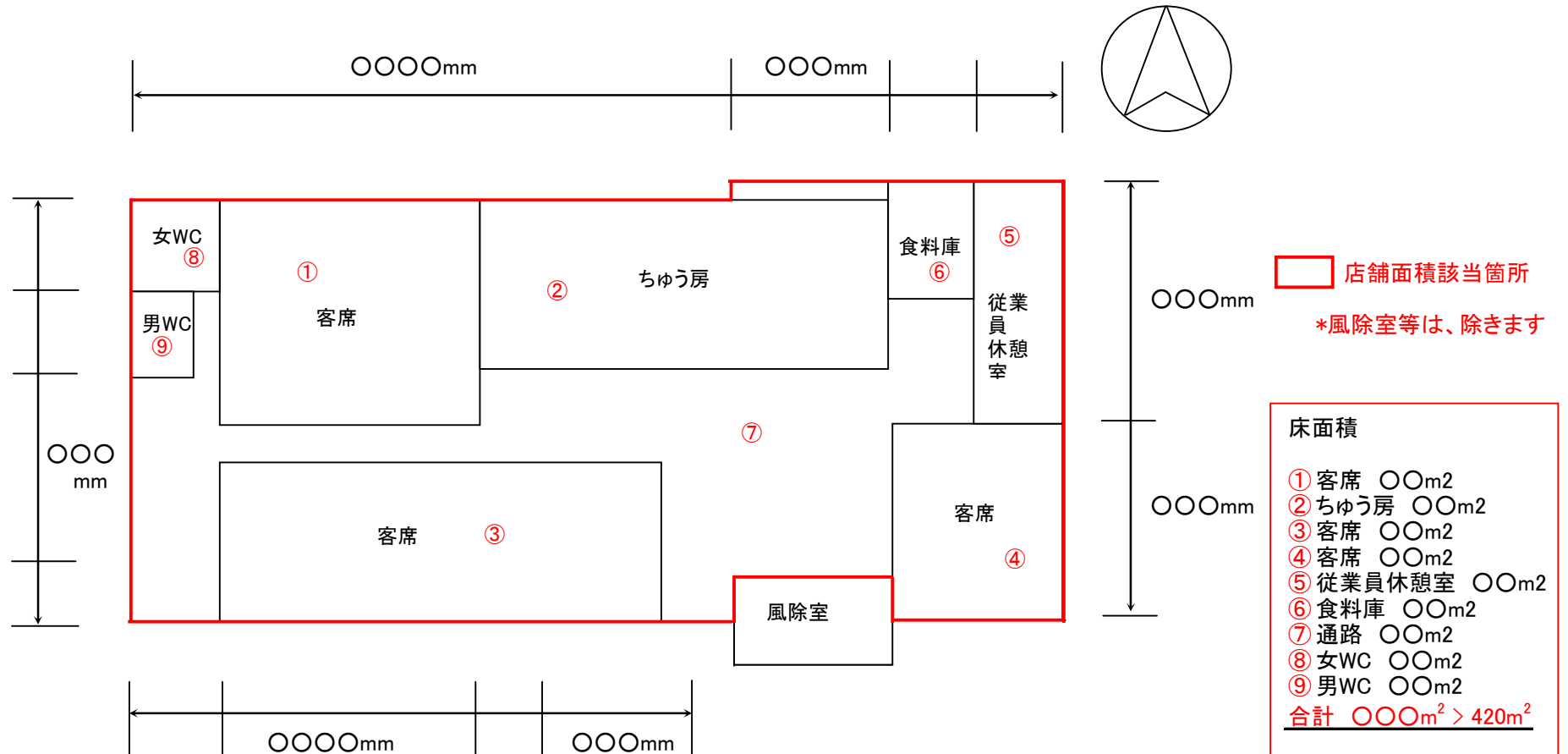


図-4 給水管図（記入例）

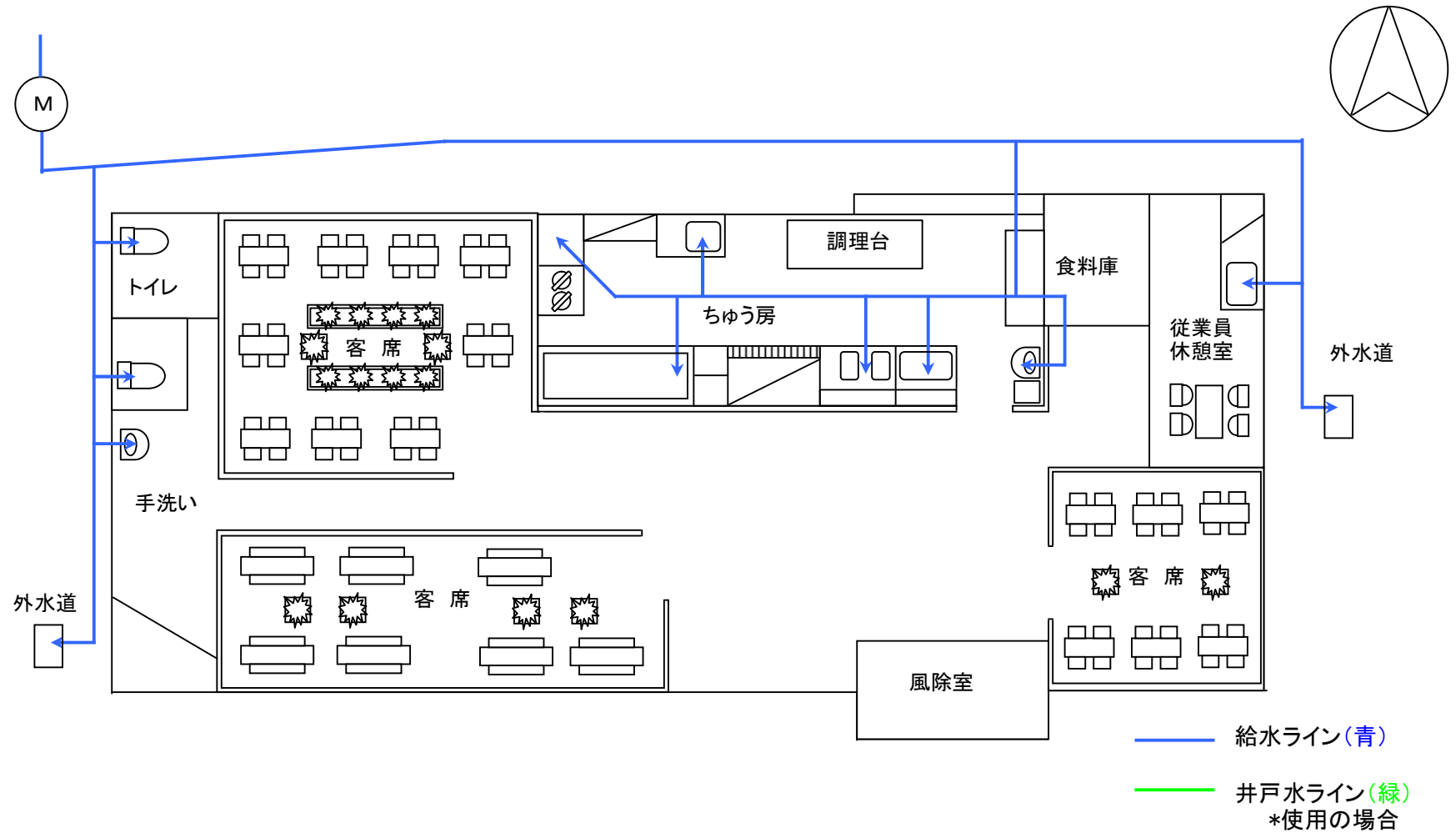


図-5 排水管図（記入例）

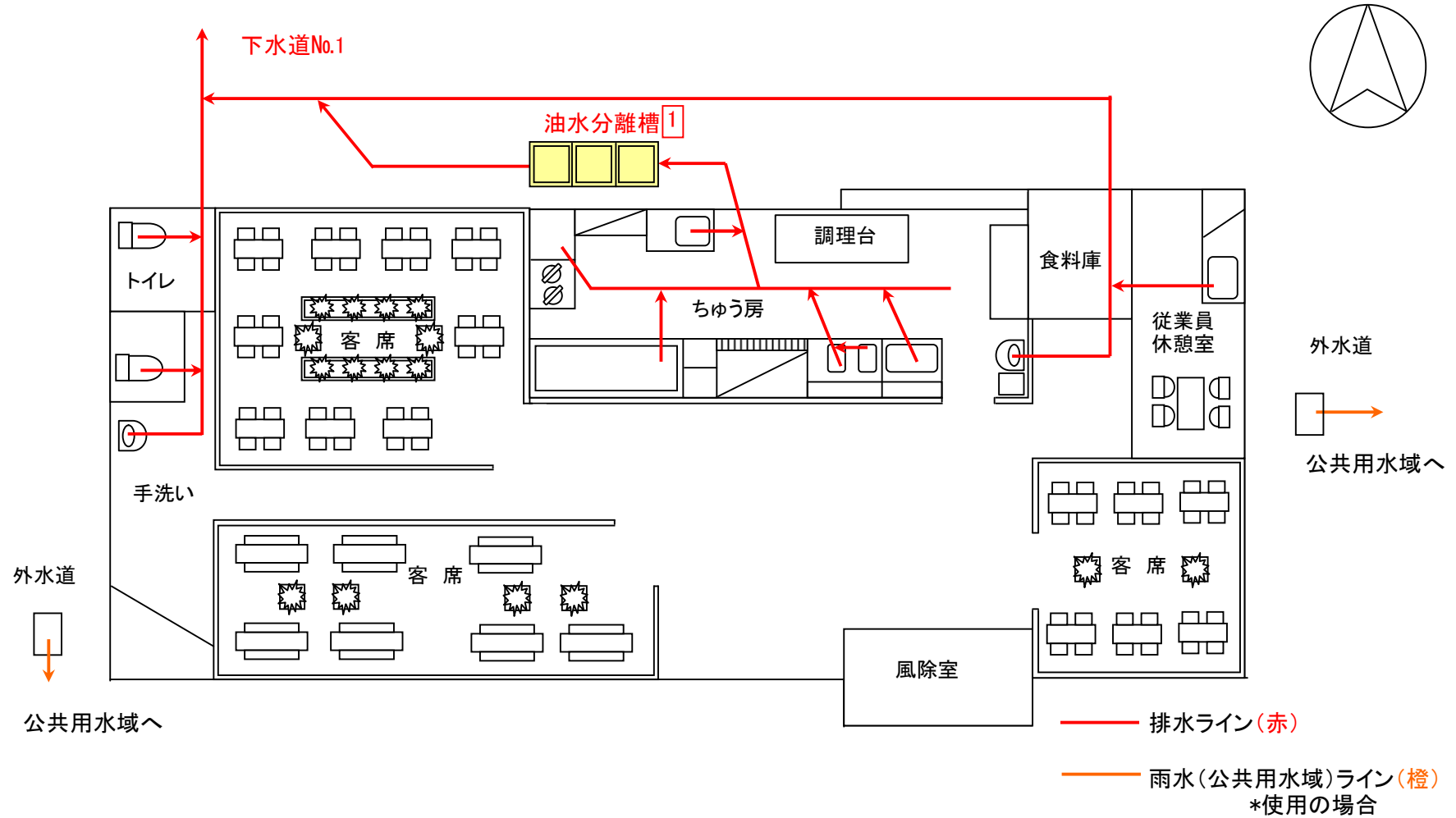


図-6 操業系統図（記入例）

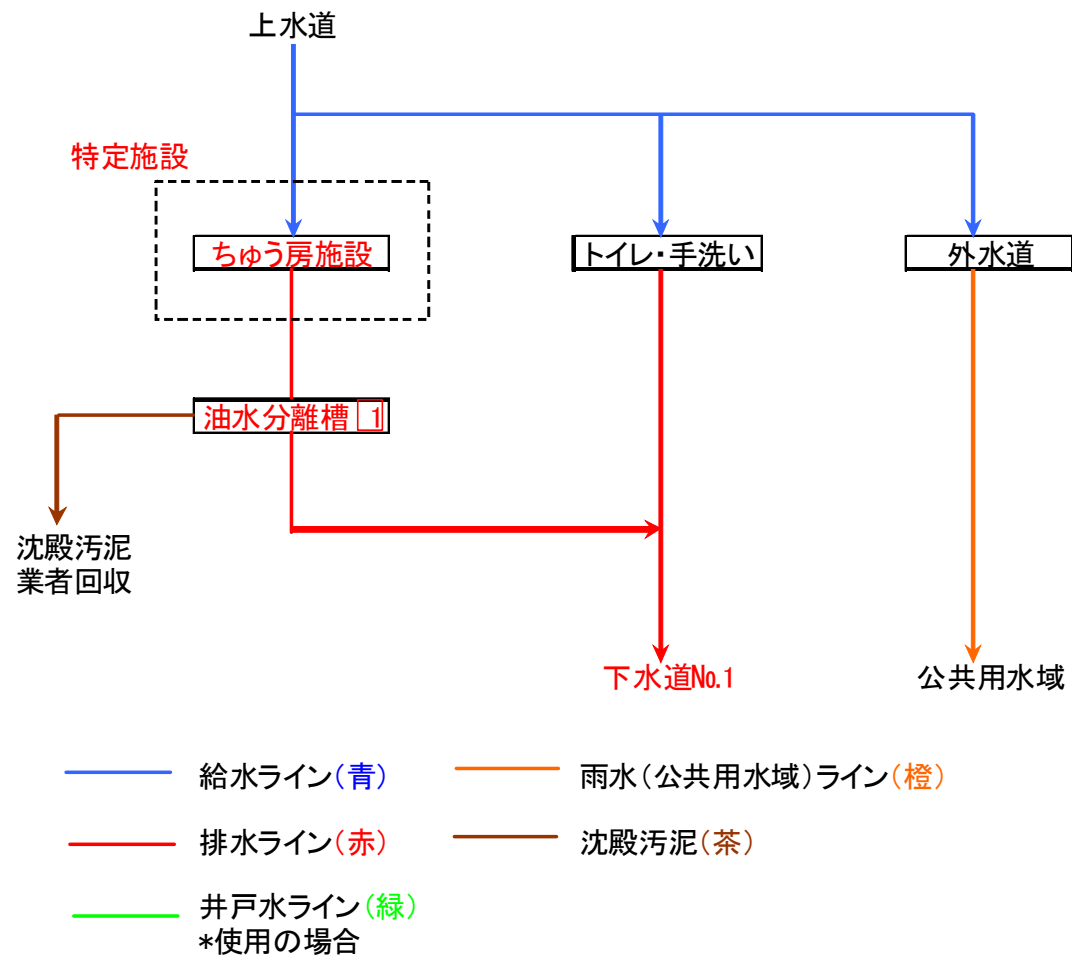


図-7 汚水処理系統図（記入例）

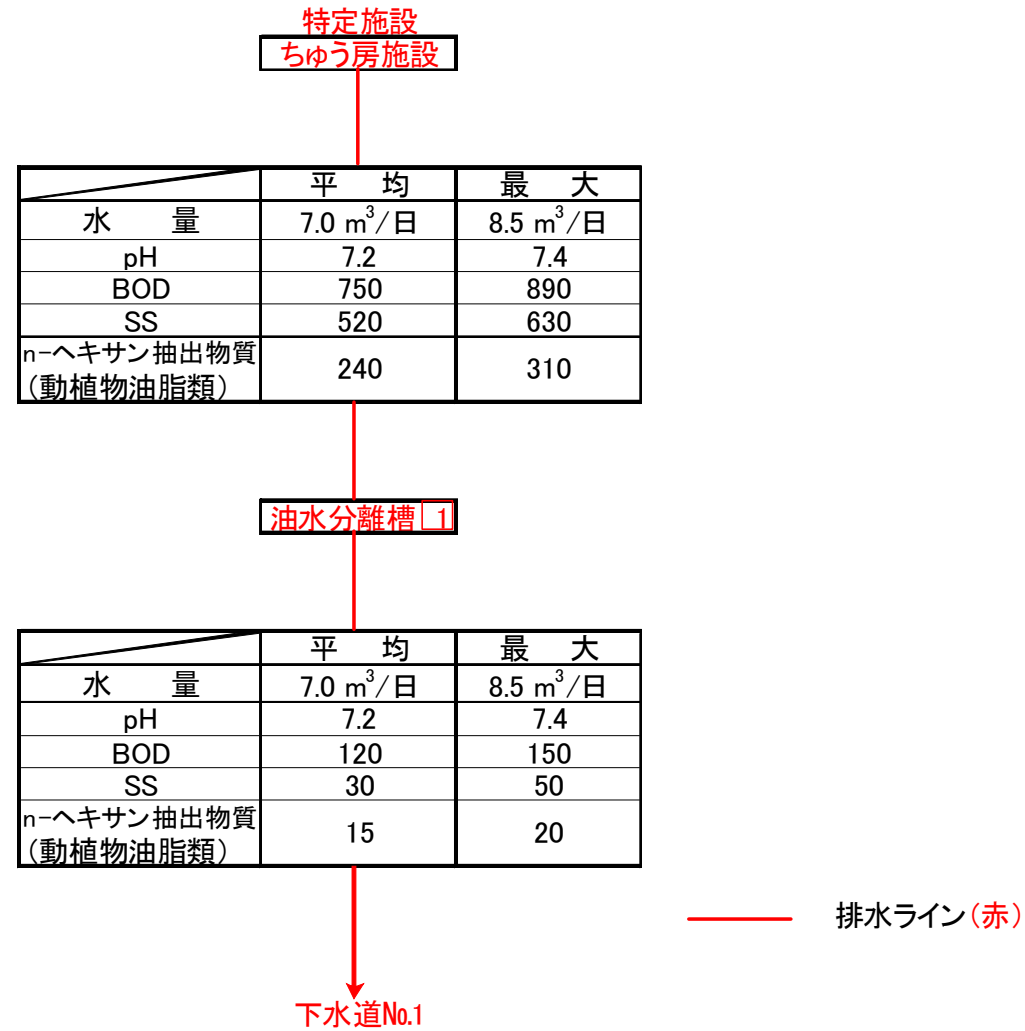
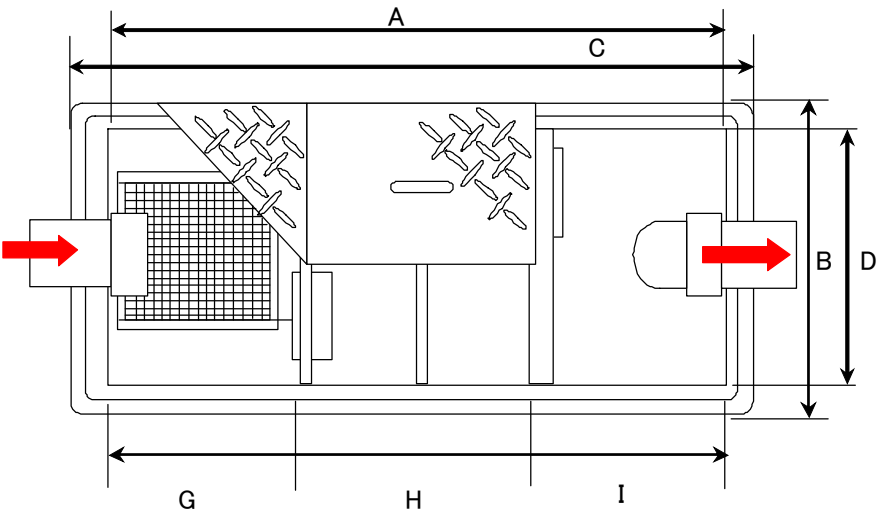


図-8 油水分離槽の構造図（記入例）

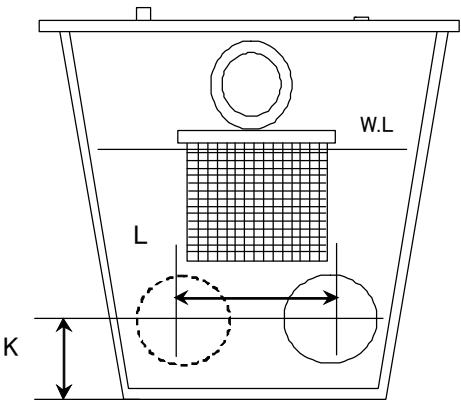
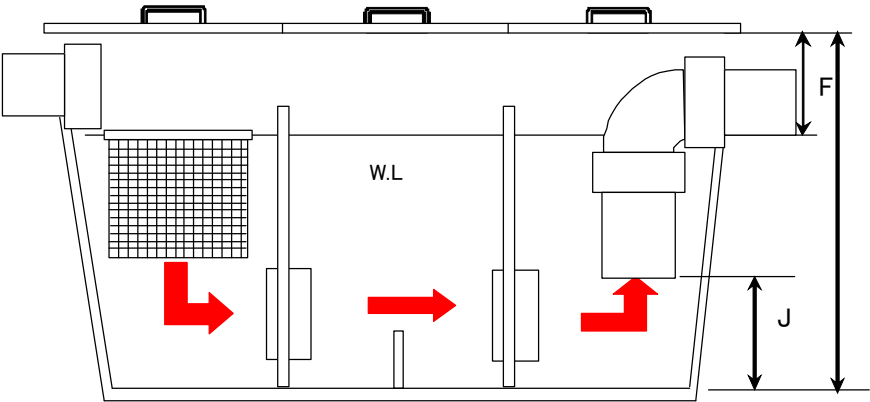


油水分離槽 ①

□□社製
3槽式 G-400型 必ず寸法を明記してください。

型式	実容量 (L)	許容流入量 (L/min)	標準グリス阻集量 (kg)
G-50	48	36.0	11.3
G-100	98	67.5	21.2
G-150	148	115.5	36.3
G-200	198	159.7	50.3
G-250	248	187.5	59.0
G-300	298	226.5	71.3
G-350	348	266.2	83.8
G-400	398	292.5	92.1
G-450	448	330	103.9
G-500	498	373.5	117.6

型式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	有効水量
G-400	1400mm	710mm	1300mm	610mm	800mm	220mm	520mm	390mm	390mm	150mm	150mm	300mm	398L



油水分離槽選定計算書（記入例）

*工場製造の阻集器の選定の場合

空気調和・衛生工学会規格

SHASEIによる計算例

*決まった書式等はありません

業種: 洋食

A	: ちゅう房延床面積(ちゅう房、客席)	318.79	m ²
t	: ちゅう房使用時間	720	分
G _u	: 阻集グリース質量/1日	8.5	g
k	: 危険率を定めた時の流量に対する倍数	3.5	
n	: 回転数/1日1席あたり	5	人
n ₀	: 補正回転数/1日あたり	2.9	
G _b	: たい積残さの質量/1日1m ² あたり	3.5	g
i _u	: グリース掃除周期	7	日
i _b	: たい積残さの掃除周期	28	日
W _m	: 使用水量/1日1m ² あたり	95	L
C ₂	: 定数	10 ⁻³	

1. 阻集グリース層の容量 $G_u = A \times g_u \times n / n_0 \times i_u \times C_2$

$$G_u = \frac{318.79 \times 8.5 \times 5 / 2.9 \times 7 \times 10^{-3}}{1} = 32.7 \text{ kg}$$

2. 流入水量 $Q = A \times W_m \times n / n_0 \times 1 / 720 \times k$

$$Q = \frac{318.79 \times 95 \times 5 / 2.9 \times 1 / 720 \times 3.5}{1} = 253.8 \text{ L}$$

3. たい積残さ層の容量 $G_b = A \times G_b \times n / n_0 \times i_b \times C_2$

$$G_b = \frac{318.79 \times 3.5 \times 5 / 2.9 \times 28 \times 10^{-3}}{1} = 53.9 \text{ kg}$$

今回設置する油水分離槽は、G-400(図-8)

許容流入量は、292.5 L

グリス阻集量は、92.1 kg

上記の計算結果と比較すると、

流入流量は、253.82 L < 292.5 L

グリス阻集量は、32.7 + 53.9 = 86.6 < 92.1 kg

したがって、今回設置の油水分離槽(G-400)は、処理能力を満たしています。